

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172900805		
法人名	北海道医療株式会社		
事業所名	グループホームハッピーヴィラしんまち		
所在地	北海道旭川市6条西1丁目1番2号		
自己評価作成日	平成25年11月11日	評価結果市町村受理日	平成25年12月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

各入居者様の出来ることや、興味のもちそうなことを考慮しながら、その方にあった活動を無理なく、一緒に行い、意欲向上、身体機能が維持されるよう取り組んでおります。又、常に入居者様、一人一人の尊重のあり方について、考慮しながら自己の生活ペースを保ち充実をした生活を送っていただけるよう配慮しております。他、地域に根ざしたグループホームを目指し、当ホームが地域の方にとって、つどいの場になれるよう、講習会や催しを開催し、呼びかけ、地域の方々と交流を図り、少しでも力になり貢献してゆけるよう日々、考慮しながら取り組んでおります。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kajigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=tr ue&JigvosyoCd=0172900805-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット
所在地	札幌市中央区南6条西1丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401号室
訪問調査日	平成25年11月25日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

平成13年、医療法人を母体に開設されたグループホームハッピーヴィラしんまちは、「個別性を尊重し自尊心を傷つけない対応をします」「明るく楽しい生活を支援して精神の安定を図ります」の理念の下、利用者へ適切なサービス提供が出来るよう、モニタリング、カンファレンスをきめ細かく実施し、個人の介護記録には介護計画書を添付し、全職員が均一な介護支援が提供できるよう取り組んでいる。毎日の散歩や体操、歩行運動、更に、職員と共同作業で市の高齢者文化祭に出品する作品を制作し、利用者の身体機能が維持できるよう取り組んでおり、介護度の改善に繋げている。周辺にはマンションが多く、町内会は高齢化し、活動が停止状態になっているが、保健所の協力を得て、食中毒、感染症の研修を地域住民に声を掛け開催したり、事業所の行事案内をポスターリングして呼びかけ、地域貢献すべく取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	個別性を尊重し、自尊心を傷つけない、明るく楽しい生活を支援出来る様、常に考慮しながら取り組んでいる。	理念はラウンジに掲げ、更に、管理者、職員のネームプレートの裏に挟みながら、常に意識し、実践に活かしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	催しや講習会などを開催し、呼びかけ、地域の方と入居者様が触れ合い、一緒に楽しめるよう交流の場を定期的に行っている。	町内会には加入しているが、現在活動は停止している状態となっている。研修会や事業所行事には、地域に積極的に呼び掛け、参加を得て交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や催しなどで、認知症の方への理解や危険防止対策などを話し、一緒に考えていただきながら、取り組んでいる。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議で話をしている避難訓練の内容などについて、ご意見をいただき、取り入れながら防止対策を考慮し、話し合いながら、取り組んでいる。	運営推進会議は年6回、利用者家族、町内会、民生委員、地域住民、包括支援センター所長、見識者の出席を得て定期的に関催され、活動報告、その他議題を決め、話を伺い、運営に活かしている。	毎回、利用者家族の参加を得る工夫と、参加メンバー、家族、職員との情報共有体制の構築を期待する。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	変更届に関することやグループホームでの規定など教えていただいたりしながら、ご指導いただき、連携体制を図れる様に取り組んでいる。	担当部局とは届け出に関する事等の指導や情報を得ながら連絡を密にしている。今迄は主に電話であったが、これからはメールでの連絡となっている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	グループホームでの拘束事項について、どのようなことが拘束なのか？又、以前から玄関の施錠については話し合い、意識しながら拘束のない取り組みをしている。	管理者、職員は身体拘束の弊害や、指定基準における禁止の対象となる行為について、毎日のミーティングやカンファレンス時に話し合い、意識しながら身体拘束のしない支援に取り組んでいる。又、運営推進会議でも議題として取り上げ、意見を得ながら身体拘束の無い取り組みをしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入居者様の身体に何かあった場合や、色々な面々において虐待や拘束になりえることなどについて、話し合い、又、先日、運営推進会議でも当、グループホームでの拘束や虐待について話し合った議題で行い、皆で周知出来る様にした。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日頃、成年後見制度については、大まかであるが、話している。他、今後、勉強会で十分に話し、他の劇団で行っている成年後見制度の寸劇を開催していただき、熟知できるようにする。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時やご家族様の来所時、会話の場をもち、その中で契約事項等についてや、他の詳細について話し、ご理解いただけるようにしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様からの直接なご意見等について、職員間で話し合い、その上でご家族様へ相談をさせていただき、話し合ったことがあった。又、ご家族様の要望とどうか、互いの意見なども含めた内容を合わせて反映されるよう取り組んでいる。	利用者からの意見や要望は、その都度ミーティングで話し合い、改善に向けて取り組んでいる。利用者家族には、毎月発行のホーム便り、担当者からの個人便りや、来訪時の会話の中で、利用者の様子を詳しく報告し、意見や要望を得て、運営に反映させている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員が他の事業所へ研修へ行き、他の事業所の取り組み方などの意見について、研修結果を含め、今後の当事業所の業務や形態に反映されるよう話した。	以前は毎月一度、全体でカンファレンスを含めた職員会議を開催していたが、カンファレンスのみとなっている。個人面談は年に2回実施して、職員からの意見を得る場としている。	全職員での話し合いの場の設定と、さらなる研修体制の構築を期待する。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	研修等や業務形態について話を聞いて下さり、向上心を持って勉強や業務遂行が出来るよう配慮してくれた。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	上記同様、研修等参加について話を聞いてくださり、勉強、知識が身につく場に参加させてくれた。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同地区のグループホームでの交流会の場に参加をさせて下さり、他方の意見や取り組みから参考になる内容を考慮し、当事業所でも活かせるようにして下さっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ケアプランの見直し時や、日頃の生活状況から、様子を伺い、ご本人様が求めているようなことを把握し、話し合いながら良い関係が保てるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	上記同様、ケアプランの見直し時や、ご家族様が来所時に、会話をもち、要望やこちらからのご本人様の様子等を伝え、互いの意見をかみ合わせながら取り組んでいる。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様の生活状況の中で必要とされるものについて職員間で話し合い、その後、ご家族様が来所された時などに話し、ご意見等を含めたご本人様にとってふさわしいサービス内容で支援出来るように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様と話をする上で、距離感を感じさせてしまう話し方にならぬよう、又、慣れ慣れしさを感じさせない対応の仕方を各職員、意識しながら良い関係を築けるよう努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	催しなどご家族様に呼びかけ、一緒に楽しめるよう、又、来所時、ご本人様の様子を伝え、普段から身近でご家族様がご本人様に接しているような配慮している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様に承諾を得て、ご本人様が住んでいた場所や馴染みの方々と会う機会を設けた。又、1ヶ月に1回、馴染みの美容院へ送迎をし、長年培ってきた仲が継続されるよう配慮している。	利用者が嘗て住んでいた場所を見に行きたいとの希望を叶えたり、又、通っている美容室等へ送迎し、馴染みの関係が途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	各入居者様の仲の良い方や悪い方同士を把握し、座席や入浴時、はちあわせにならぬよう、又、皆で何か一緒に出来ることを行うことによって、少しでもお互い仲良く会話が出来、不快感を感じさせないようにする。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入所されていた時の様子について教えてほしいという連絡があり、その都度、話し、そして現在の入居者様の様子について伺ったりと、頻繁ではないが、取り交わっていた。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプランの見直し時や、日頃の会話からその方の意向把握に努め、伺ったりしながら、ご本人様の望まれる方向になるよう、考慮しながら対応している。	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望や意向は、日常の会話の中で把握し、意向に沿った生活が出来るよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様にご本人様の生活歴や習慣などを伺い、日頃の生活中で、活かして行ける様、又、ご家族様と話し合い、習慣を継続し、意欲現状維持で努めてゆけるよう配慮した		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	常に入居者様の様子や過ごし方について把握し、その方にとって良い過ごし方がなされるよう、職員間で話し合いながら対応している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプラン作成前や日頃の会話からご本人様に要望や思いなど伺い、他職員間でも話し合い、現状にあったサービス内容で取り組めるようにしている。	毎日の介護記録はケアプランを意識した記録となっており、モニタリングやカンファレンスに活かし、概ね6ヶ月毎の見直しに役立っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	その日の職員で入居者様にとって良いケア対策について話し合い、他の職員も把握出来る様、ケア対応見直し表に記入し、対応の仕方について見直している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様やご家族様の現状があまり変わらないのであれば、現状維持としてのサービス内容で対応させていただいている所もあるが、サービス前に変わりにくいことを話し、互いに認識しながら対応させてもらっている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティア図書館など地域資源を活用させていただき、ご本人様の好きな本を読んでもらうこと、充実した生活がおくれる様、取り組んでいる。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人様、ご家族様の要望で月に1度、外来受診をされている方もいる。他、系列の医療機関と常に連携を図り、適切な処置を受けられる様、又、私達職員もご指導いただき、入居者様の対応をさせて頂いている。	月に一度、系列病院の内科と歯科の居宅療養及び在宅診療がある。他の科については事業所対応で通院しており、変化時には速やかに家族へ報告されている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師や、系列の医療機関に伝え相談をしながら適切な医療を受けられるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	月に一度の在宅診療時での担当医や看護師、そして訪問看護時や相談員と情報交換をしながら、ご本人様、ご家族様に今後の方針について話し、お互いの考え方が把握され、その状況に素早く対応がなされる関係作りをしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居前や常にその時々状況をご家族様と話し合いながら、後々の方向について話し、当事業所で生活が困難になった場合のことなどについて話し、他の施設入所申し込みをしていただけるよう方向性のある話をしている。	重度化した場合の指針を作成し、入居時に説明を行ない、身体機能が低下し医療が関わってきた時には対応が難しくなる事をお伝えしている。医師、看護師、家族、事業所と話し合う体制が整っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	半年に一度、救急救命講習会を開催し、再認識が出来る様、訓練を行っているが、時間の経過と共に薄れることもある為、今後、常時、訓練が出来る様、考慮する。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練などで、入居者様の避難場所について話し、又、運営推進会議などで、地域の方々へ避難場所についてのご意見などを聞きながら考慮している。	年4回を目標に避難訓練を防災業者の協力を得て実施している。又、地域住民の協力を得て連絡網を作成している。運営推進会議でも議題に取り上げアドバイスを得ている。	避難訓練時に防災業者の協力を得て実施しているが、時には消防署の協力を得た避難訓練を実施する事と、地震、水害、停電等の災害対策の検討を期待する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格の尊重について、何処までを尊重したらよいか？と話し合いになり、尊重についても良い尊重と違う尊重について話し合った。今後もその方にとって、ふさわしい尊重を考慮しながら取り組んでゆく。	管理者、職員は利用者を人生の先輩として尊敬し、人格を尊重した対応に努めている。排泄等プライバシーに関わる介護はさり気なく行い、呼び掛けはさん付けを基本としている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	会話の中で、思いや希望をさせれるよう、さりげなく意志を伺いながら自己決定がなされるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	都合や決まりについて職員側よりで優先されている所もあるが、決定をする前に、職員側の都合にはならぬよう考慮しながらなるべく希望にあうよう対応させていたがっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	1人1人の好みなどから普段着選びやお出掛け着について一緒に選んだりしながら配慮している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	嫌いなものなどについては、違うもので代用したり、他、栄養価を考慮しながら盛り付けている。又、準備や後片付けについては、様子を伺い、又、仲の良い悪い同士の組み合わせなどを把握しながら配慮している。	法人本部の栄養士が作成した献立を、利用者の好みや嚥下状態に合わせてながら食事の提供をし、利用者も準備や後片付けを職員と共にやっている。おでかけレクレーションで外食や喫茶店に出かけ楽しんでいる。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養価などを把握し、看護師などにご指導していただきながら、その方に合わせた食事摂取を考慮しながら対応している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを促し、口腔内清潔衛生保持が保てるようにしている			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	常にパット使用状況など把握し、その方にふさわしい物への使用やパット確認などをさせていただき、疾患に繋がらぬよう配慮している	チェック表を参考に、タイミングを把握し、さり気なく誘導したり、夜間ポータブルトイレを使用したりと、一人ひとりにふさわしい対応に努め、排泄の自立に向けた支援に取り組んでいる。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防対策としてはホットミルクを飲用していただいたりと出来る範囲の対応をしている			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	出来る限り入居者様、優先の入浴日をその日の業務と照らし合わせながら、対応している	週3回入浴出来るように支援している。拒否のある方には無理強いせず、時間をかけて気持ちがほぐれるように取り組み、タイミングを図りながら入浴支援を行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	倦怠感等についての訴えがあった時などはラウンジのソファで休んでいただいたりしながら状況に応じて休める場を提供している。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の効能について把握出来る様、おんど版に記載をし、熟知出来るようにしている。他、担当医と相談をしながらその時の症状に合わせた服用への取り組みをしている			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	馴染みのことを活かしながら残存機能が維持されるよう、活動を促したり、又、ご家族様から伺い、出来る活動を活かし、取り組んでいる			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	美容室や散歩など少人数で行き、なるべくご要望に添えるよう配慮している	年に一度、法人全体で観光地に出かけ楽しんでいる。日常的に、天候や体調に留意しながら、近隣への散歩や買い物、喫茶店へ出掛けたり、昔住んでいた所を訪ねたりと利用者の希望に沿った個別支援に努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様と相談をしながら少量の金額をご本人様が所持され、お出掛けレクなどでご自分で支払ったりされながら、お金に対する認識、所持をされるようにしている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自ら電話をされることはあまりないが、こちらからご家族様へ連絡をした時など、ご家族様と話す場を設けて連絡が出来る様にしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やラウンジには観葉植物や音楽を流し、気持ちが落ち着き癒されるよう環境作りに努めている。	共用部分は清掃専門職員が清掃を担当している。利用者の集うラウンジは広く、畳敷きの寛ぎスペースが設けられ、観葉植物が置かれたり季節の飾りつけがされており、家庭的な安らげる空間となっている。温度・湿度も配慮されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	2人掛けソファなどで、気の合う者同士が話せられるよう、居心地よく過ごせる場所がある。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用されていた物や又、ご家族様と危険性のある物について話し合い、ご家族様と協力しあいながら、ご本人様が安全で快適な生活を送れる様、配慮している。	居室には箆箭が設置されている。利用者は馴染みの家具や仏壇、好みの物を持ち込み、その人らしく、居心地の良い部屋造りとなっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室など危険性のある箇所については、ご本人様とご家族様に承諾をいただき、ガードをさせてもらったり(タンスの角などタオルでガード)しながら安全に過ごせるよう配慮をしている。		